



2021年3月9日

各 位

長野県北安曇郡白馬村大字北城6329番地 1
会社名 日本スキー場開発株式会社
代表者の役職氏名 代表取締役社長 鈴木 周平
(コード番号：6040 東証マザーズ)
問合せ先 財務経理本部長 佐藤 祥太郎
(TEL 0261-72-6040)

＜マザーズ＞投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時	2021 年 3 月 8 日 15:30～16:30
開催方法	対面による実開催
開催場所	千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング9 階 新丸ビルコンファレンススクエア Room902
説明会資料名	2021年7月期 第2四半期決算説明資料

【添付資料】

決算説明会において使用した資料

2021年7月期 第2四半期 決算説明資料

2021年3月8日(月)

長野県北安曇郡白馬村大字北城6329番地 1
日本スキー場開発株式会社
(証券コード：6040)



1. 決算概要	P. 3
----------------	-------------

2. 施設別状況	P. 9
-----------------	-------------

3. Withコロナにおける施策	P. 16
-------------------------	--------------

4. Appendix	P. 22
--------------------	--------------

1. 決算概要

P. 3

2. 施設別状況

P. 9

3. Withコロナにおける施策

P. 16

4. Appendix

P. 22

【PL】

- ✓ グリーンシーズンは好調に推移するも、冬期は緊急事態宣言により来場者数急減
 - ・ +) 第1四半期までの営業利益水準は過去最高
 - ・ +) 営業・管理機能の統合や本社人員の現場配置等によりコスト適正化
 - ・ -) 冬期来場者数について、めいほう・岩岳の来場者数は前年超過したが、宿泊を伴うエリアが急減
団体は、ほぼ全てキャンセルとなり、バスツアーも大幅減
 - ・ -) 冬期付帯売上について、新型コロナウイルス回避行動から、レンタルやレストラン利用率が減少

【BS】

- ✓ 財務状況
 - ・ 前期に最悪の事態に備え用意した短期借入金1,000百万円を返済(第1四半期。実質無利子の長期借入に借換)
 - ・ 384百万円の自己株式取得を実施(第2四半期)
- ✓ 投資状況
 - ・ 小雪対策投資：412百万円（降雪機等7スキー場に投資。小雪対策投資は概ね一巡）
 - ・ 開発用地取得：108百万円（白馬エリアでの投資）

- 降雪状況 : 12月中旬以降のまとまった自然降雪により、順調にコース拡大
- コロナの影響 : 1月上旬の緊急事態宣言により来場者急減。最繁期に大きなダメージ
- 営業外損益 : 新型コロナウイルス関連補助金を取得。設備投資分は圧縮記帳を実施

損益計算書等の状況

(単位：百万円)

	20/7期 2Q	21/7期 2Q	前期比 増減	前期比 割合
売上高	3,208	2,276	△ 932	71.0%
営業利益	200	△ 310	△ 511	—
経常利益	202	△ 277	△ 480	—
当期純利益	356	△ 384	△ 741	—
EBITDA	471	△ 40	△ 511	—
運営スキー場数	8ヶ所		-	

【来場者数】

(単位：千人)

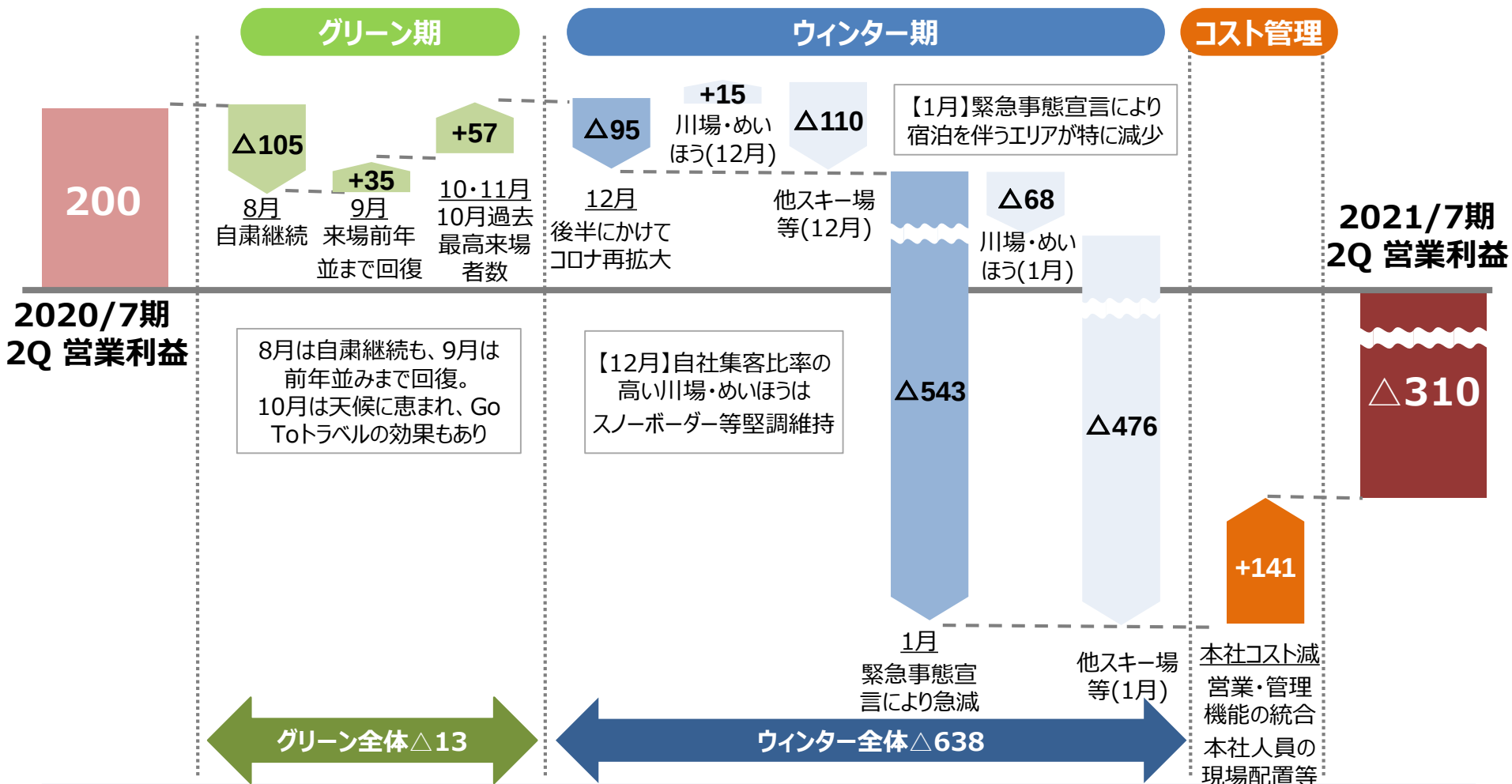
ウィンター	691	423	△ 268	61.2%
グリーン	269	236	△ 33	87.8%
来場者合計	961	659	△ 301	68.6%

- 第2四半期までのコロナ関連補助金は88百万円
- うち、55百万円は投資に関する補助金であり圧縮処理を実施
※降雪機投資に充当
- その他に、現時点で160百万円の補助金を申請中(第3四半期以降に計上予定)

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

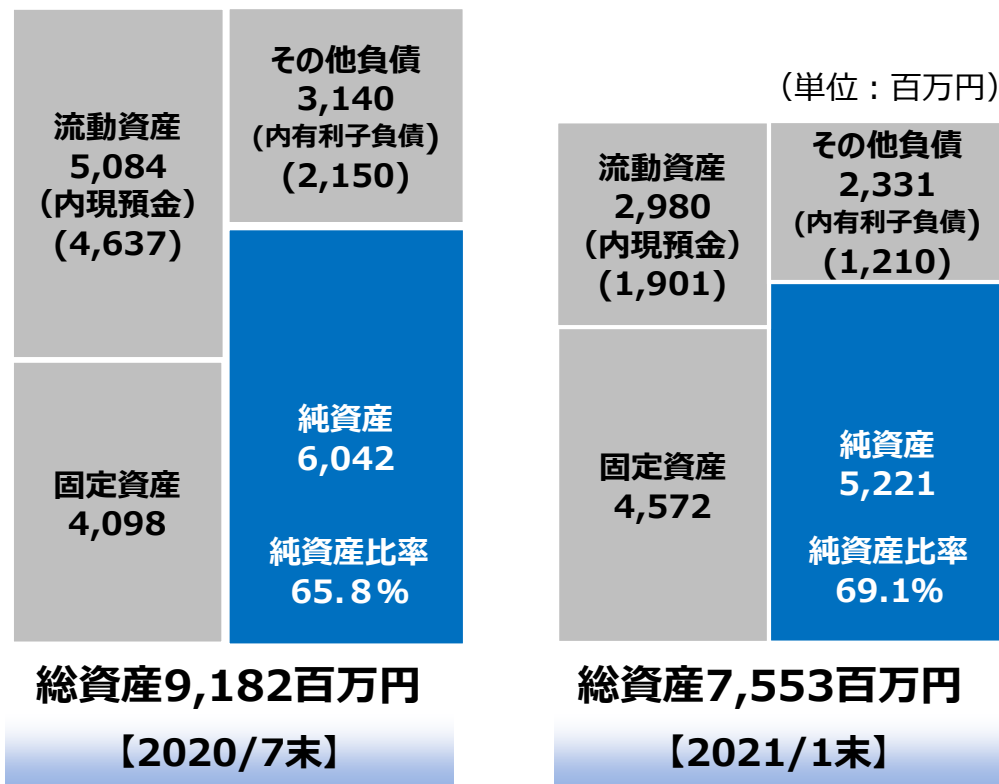
21/7月期 上期 営業利益増減明細

- グリーン期は堅調に推移したが、12月後半からのコロナ再拡大及び緊急事態宣言により来場が急減
- 本社コストは営業・管理機能の統合や現場配置等により最適化を継続



- 前期に、最悪の場合に備え実行した短期借入1,000百万円を第1四半期に返済
⇒全額実質無利子の長期借入1,100百万円に借換
- 2020年12月に自己株式384百万円を市場取得

バランスシートの状況



- 短期借入金：50百万円
一年以内長期借入金：60百万円
長期借入金：1,100百万円
- 長期借入金1,100百万円はコロナに係る利子補給制度に基づくものであり、実質無利子

2021年2月来場者数 ※3/5開示

- 2月は前年比46%の減少となり、1月と同様の減少率となるが、2月中旬以降は回復傾向が見られた
- 2月末に大阪府等6府県の緊急事態宣言が解除され、今後は人の動きの加速が想定されるが、1都3県の緊急事態宣言は延長となるなど、今後の来場動向の合理的な見積もりが困難なため、通期予想は未定とした

ウィンターシーズン来場者数(2月単月)

運営スキー場名	2020/2	2021/2	前期比
白馬八方尾根スキー場(HV*)	97	47	49.2%
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	25	24	96.7%
栂池高原スキー場(HV)	101	41	40.6%
鹿島槍スキー場(HV)	30	16	53.9%
竜王スキーパーク	71	27	38.7%
川場スキー場	57	39	69.1%
めいほうスキー場	67	55	83.0%
菅平高原スノーリゾート	78	29	37.5%
スキー場計	530	283	53.5%
その他(かわばんち、おに助他)	3	4	151.1%
合計	533	288	54.0%

(*)HV : HAKUBA VALLEY

1. 決算概要

P.3

2. 施設別状況

P. 9

3. Withコロナにおける施策

P. 16

4. Appendix

P. 22

20-21シーズンのオープン状況

- 12月上旬は気温上昇が続き人工降雪機の稼働は限定され、オープン日は全体的に遅れた
- 12月中旬からまとまった自然降雪があり、その後順調にコースは全面滑走可能となった

運営スキー場名	2019/7期	2020/7期	2021/7期	前期対比
白馬八方尾根スキー場(HV*)	12月15日	12月6日	12月15日	9日遅い
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	12月21日	12月31日	12月18日	13日早い
拇池高原スキー場(HV)	12月15日	12月16日	12月11日	5日早い
鹿島槍スキー場(HV)	12月15日	12月14日	12月18日	4日遅い
竜王スキーパーク	12月2日	12月1日	12月3日	2日遅い
川場スキー場	12月3日	12月6日	12月11日	5日遅い
めいほうスキー場	12月15日	12月9日	12月18日	9日遅い
菅平高原スノーリゾート	12月10日	12月7日	12月11日	4日遅い

ウィンターシーズン 全体来場者数

- スキー場全体の来場者数は昨対比38%減。12月はまとまった自然降雪やGo Toトラベルの効果もあり16%減に止まるが、1月は緊急事態宣言の影響が大きく46%減
- 日帰り圏で自社集客の比率が高いめいほう、川場は比較的好調(※川場は一昨年比では11%増加)
- 宿泊を伴うエリアは、緊急事態宣言後に一般宿泊、団体、バスツアーの大半がキャンセルとなった

ウィンターシーズン来場者数

(単位：千人)

運営スキー場名	2020/7期 2Q	2021/7期 2Q	前期比
白馬八方尾根スキー場(HV*)	154	80	52.3%
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	19	27	144.2%
拇池高原スキー場(HV)	108	58	54.6%
鹿島槍スキー場(HV)	41	27	67.7%
竜王スキーパーク	90	43	47.7%
川場スキー場	74	62	83.8%
めいほうスキー場	70	75	106.8%
菅平高原スノーリゾート	133	46	35.2%
スキー場計	691	423	61.2%
その他（かわばんち、おに助他）	6	10	173.5%
合計	697	433	62.1%

(*)HV : HAKUBA VALLEY

ウィンターシーズン 各スキー場のインバウンド来場者数

- 今シーズンのインバウンド来場は新型コロナウイルスの影響により当初から見込んでいなかったが、国内在住の外国人を中心に利用があった
- 来シーズン以降のインバウンド復活に向けて、海外旅行代理店や海外スキークラブ等とのコンタクトを継続

スキー場別 インバウンド来場者数

(単位：千人)

スキー場	18-19シーズン	19-20シーズン	20-21シーズン	インバウンド比率	前年比
白馬八方尾根スキー場(HV*)	84	75	6	7.8%	8.3%
白馬岩岳スノーフィールド(HV)	12	3	1	5.7%	51.9%
拇池高原スキー場(HV)	22	26	3	5.9%	13.1%
鹿島槍スキー場(HV)	0	1	0	1.2%	26.5%
白馬エリア合計	120	106	11	6.0%	11.0%
竜王スキーパーク他3スキー場	2	5	0	0.3%	11.2%
合計	122	112	12	2.9%	11.0%

(*)HV : HAKUBA VALLEY

ウィンターシーズン チャンネル別来場者数

- コロナ禍でもシーズン券利用者数は増加し、根強いファンを確保。また、オンラインチケット利用が増加し、前売券チャンネルの減少幅は比較的小さく止まる
- キッズパーク充実のめいほうは、前年に比べ十分な降雪があり、同チャンネルは増加
- 団体・修学旅行はほとんどがキャンセル。ツアー会社利用チャンネルも緊急事態宣言後は催行急減。地元旅館宿泊券も緊急事態宣言による外出自粛の影響を受ける

ウィンターシーズン チャンネル別来場者数

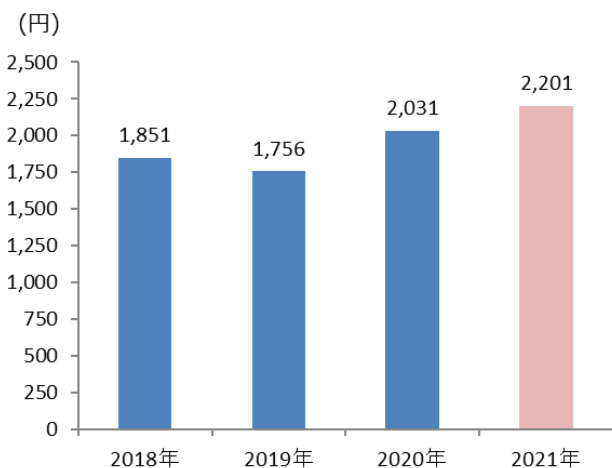
(単位：千人)

チャンネル	2020/7期 2Q	2021/7期 2Q	前期比
窓口チケット販売	290	186	64.1%
ツアー会社利用	104	44	42.0%
地元旅館宿泊	62	43	68.7%
シーズン券	63	65	102.0%
前売券・コンビニ券	55	46	85.2%
団体・修学旅行	84	3	4.2%
キッズパーク・未就学児	9	10	113.0%
その他	25	24	96.3%
合計	691	423	61.2%

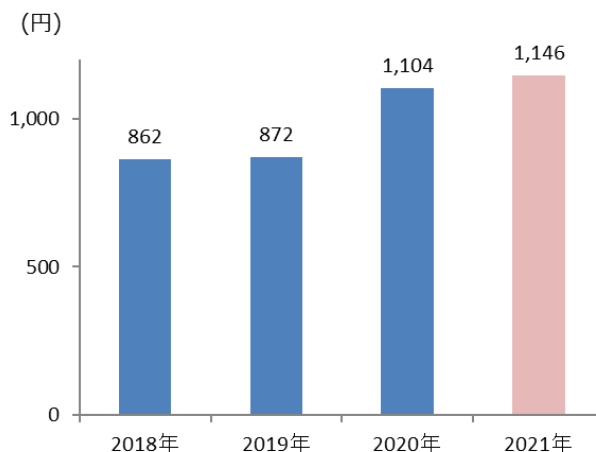
ウィンターシーズン 売上単価の推移

- 売上単価が低い傾向にある団体・修学旅行及びツアー会社利用チャネルが減少したことにより、リフト券単価が上昇
- また、グループ内でも売上単価の高い、川場及びめいほうの来場者数の割合が増加したため、全体の単価も上昇
- 一方で、川場・めいほうともにレンタルやレストランの利用率はコロナ回避行動から前年比減少し、全体の付帯売上単価の伸びは3.8%に止まる

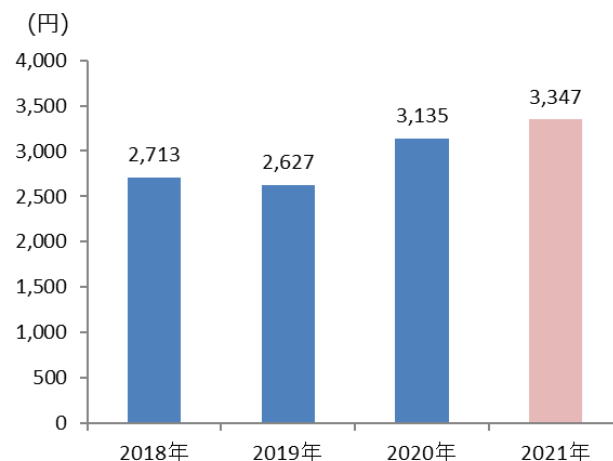
リフト券実質単価の推移



付帯売上単価の推移



総売上単価の推移



※それぞれ8スキー場合計の単価

- 8月の来場者数は前年度に比べ減少したが、9月になるとバスツアーや団体顧客は減少傾向にあったものの、一般顧客が増加し前年並みの水準まで回復
- 10月は、前年度は超大型の台風19号による悪影響もあったが、今年度は天候にも恵まれるとともに、Go Toトラベルの効果もあり、10月単月の来場者数は過去最高となった

グリーンシーズン 施設別来場者数

(単位：千人)

施設名	2020/7期 2Q	2021/7期 2Q	前期比
国際山岳リゾート白馬八方尾根(HV*)	65	54	82.4%
白馬岩岳マウンテンリゾート(HV)	83	90	107.9%
栂池高原(HV)	56	43	78.3%
竜王マウンテンパーク	63	48	75.2%
小計	269	236	87.8%
鹿島槍スポーツヴィレッジ	6	2	38.5%
川場リゾート	25	24	97.4%
めいほう高原	14	20	138.7%
合計	316	284	89.8%

(*)HV : HAKUBA VALLEY

1. 決算概要

P. 3

2. 施設別状況

P. 8

3. Withコロナにおける施策

P. 16

4. Appendix

P. 22

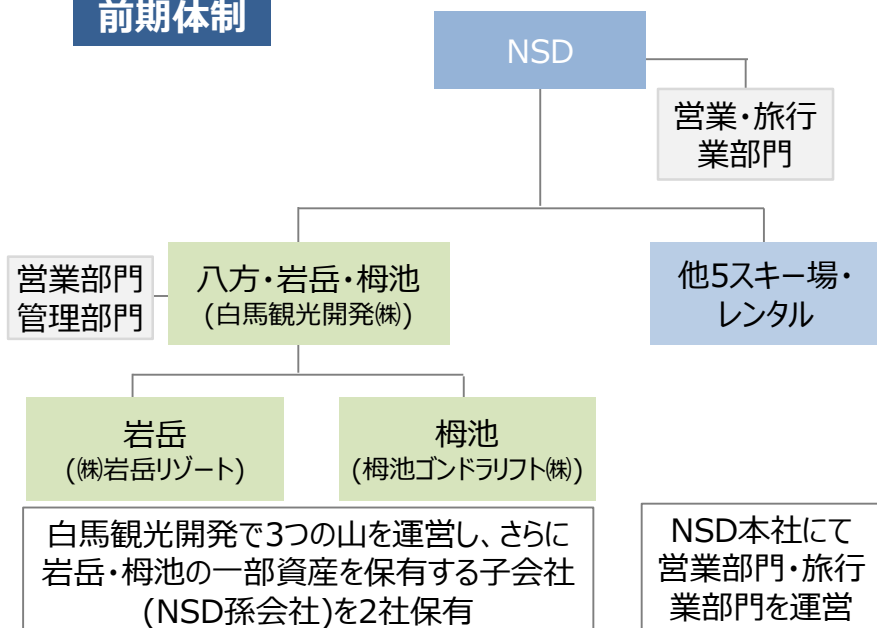
一山一社化と本社体制の見直し及び関連費用の適正化

一山一社化と本社関連費用の適正化に向けて

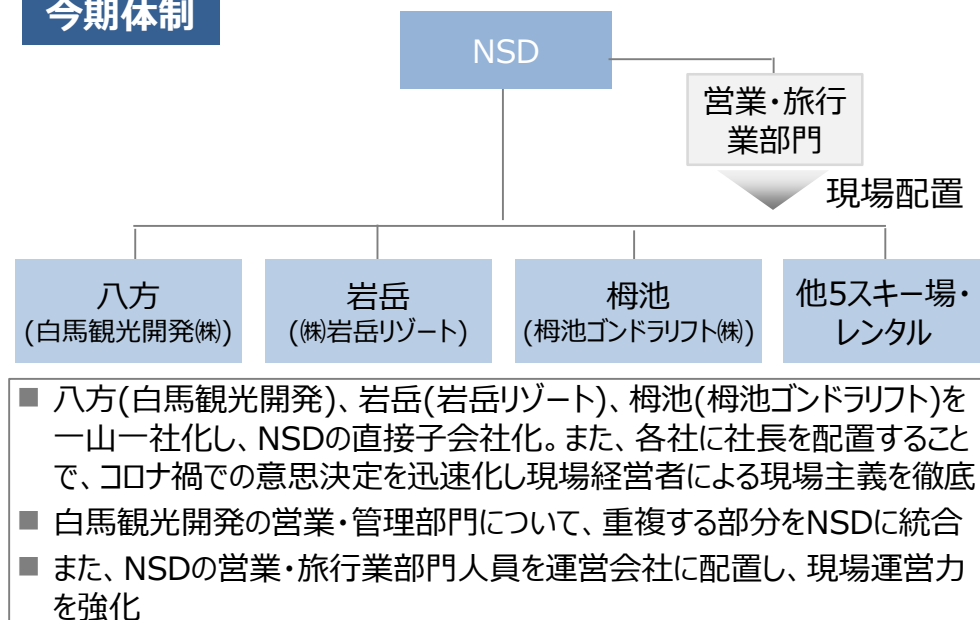
【期初計画】コロナを機に本社の無理・無駄を徹底して排除。一方で、運営会社の強化を図る

- ① 重複部門の統合等により、本社人員約30名を運営会社へ配置。現場運営力を強化し、上昇傾向にあった季節アルバイト費用や外注人件費を削減
- ② 旅行業部門の体制を見直し、コロナにおける旅客取扱減に対応
- ③ WEB化に伴うテレワーク導入や旅費等の合理化。また、広告の費用対効果を再検証

前期体制



今期体制



前期比で本社関連費用を通期283百万円適正化予定のうち、上期で141百万円を適正化計画通り進捗し、コロナ収束後も筋肉質化し、収益性の高まった経営体質を構築する

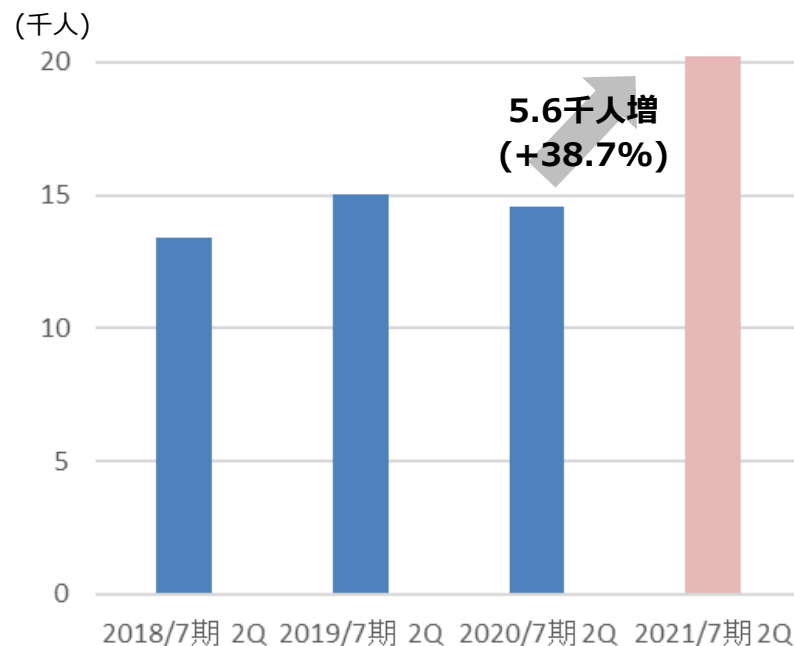
With コロナ めいほうのキャンプ・アウトドア事業

- めいほうでは、2020年7月にジップラインやバギーパークを新設したアクティビティパーク“ASOBOT”をオープン
- コロナ禍においてキャンプやアウトドア需要は好調であり、めいほうグリーンシーズン上期の来場者数は前期比5.6千人(+38.7%)の増加
- 今春もゴールデンウィークからオープンし、同期間は雪遊びエリアの設置などスキー場ならではのアクティビティ設置予定

めいほう アウトドア事業



めいほうグリーン上期 来場者数推移

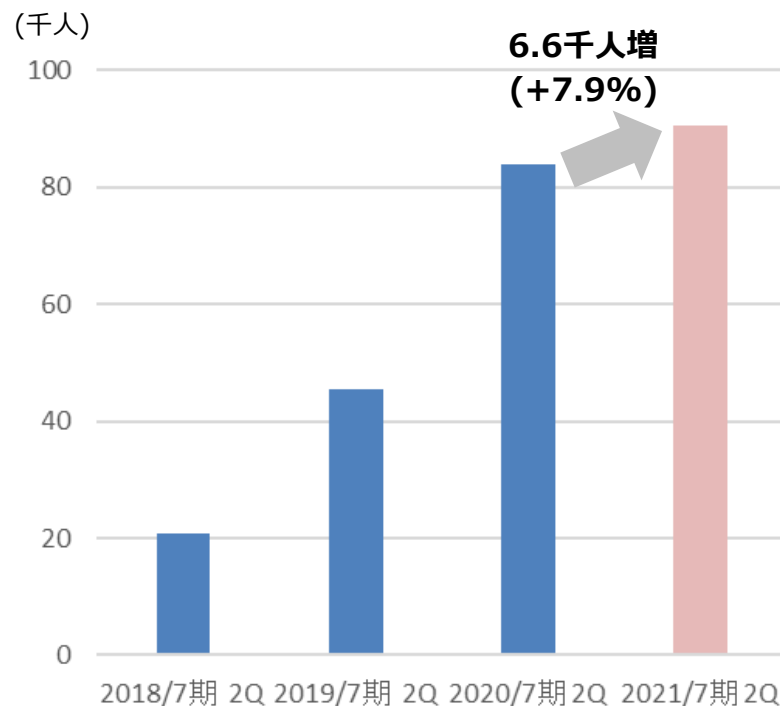


- 岩岳ではwithコロナに対応したリゾートテレワークを開始。絶景の中で心身リラックスしながら快適に働ける環境を提供し、今後の需要拡大に対応
- 2018年10月の“Hakuba Mountain Harbor”のオープン以来、来場者数は増加傾向にあるが、新たに絶景大型ブランコ“ヤッホー！スウィング”の設置や元キマグレンのISEKI氏プロデュースのフェスの開催など、コンテンツを多様化し集客を強化

岩岳のリゾートテレワークと新規コンテンツ



岩岳グリーン上期 来場者数推移



リフト券 オンラインチケットの促進

- スキー場では Gondola やレストランの消毒などグループ統一したコロナ感染防止策のもと運営を実施
- リフト券においても接触型のサービスを減らすため、オンラインチケットの販促・自動発券機の設置を進める
- 2回目以降の利用はチャージのみでリフト利用可能なため、感染対策と同時に、利便性向上による顧客囲い込みを図る

チケットの
販売促進バナー
(めいほうスキー場)



各スキー場設置の
自動発券機

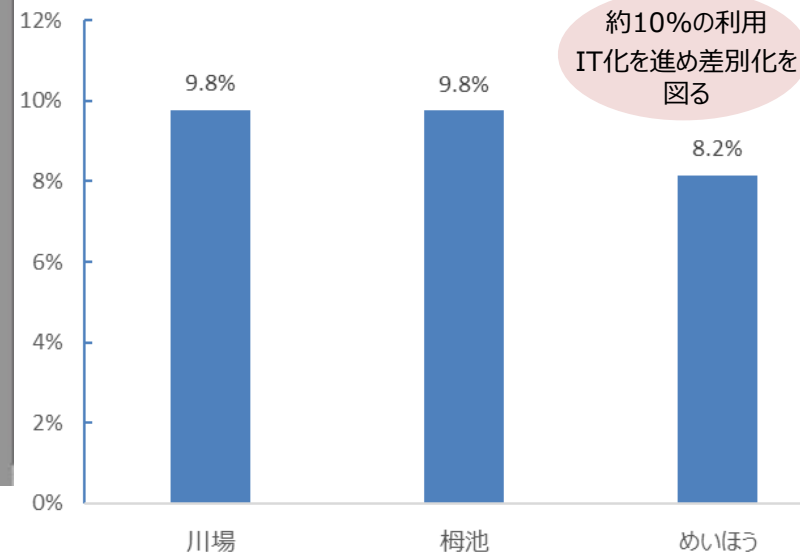
Webチケットのご案内

NEW ICカード自動引換機「skiosk」の導入で、
来場時のチケット受取りがさらに手軽になりました！



オンラインチケットの告知(川場スキー場HP)

来場者数に対するECチケットの販売割合



ウィンターシーズン ノンスキー層の獲得に向けて

- グリーンシーズンと同様に、ノンスキー層の観光来場に向けた取り組みを強化
- 岩岳では山頂にスノーアウトドアエリア「Iwatake White Park」をオープン。白馬に店舗新設のスノーピークと連携したスノーシュー体験やペットプランもスタート。当上期は全体の来場者の約9.8%が一般観光客に
- 鹿島槍での国内最長チュービングエリアの新設や、めいほうではキッズゲレンデを西日本最大級まで拡大させるなど、スキーやスノーボードだけではなく一般来場者も一緒に楽しめるリゾートづくりを進める

岩岳

「Iwatake White Park」



鹿島槍

「Tubers High」



めいほう

「ひつじのショーンスノーランド」

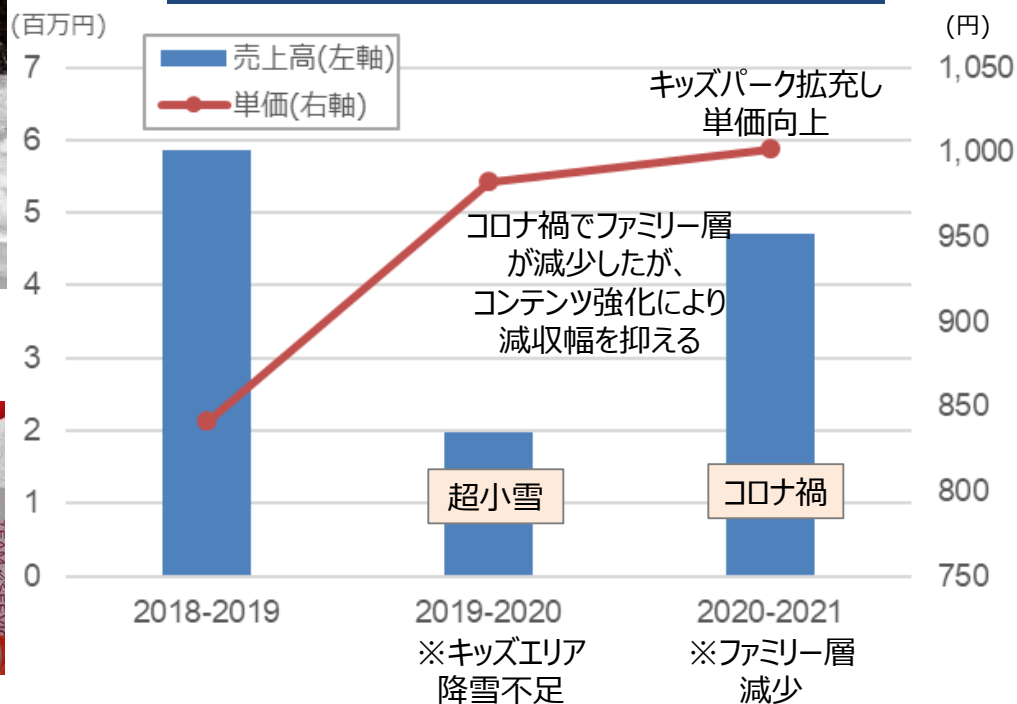


八方

「なきやまスノーランド」



めいほうキッズゲレンデの状況(2Qまで)



1. 決算概要

P. 3

2. 施設別状況

P. 8

3. Withコロナにおける施策

P. 16

4. Appendix

P. 22

HAPPY TRIANGLEの形成

- 貴重な【自然】を最大限活用し、非日常的な空間・サービスを提供し、
- スキーヤーに関わらず多種多様な【顧客】が訪れ、
- スキー場を含めた【地域社会】全体が潤っていくことが最大のミッション

自然の活用・自然との共存

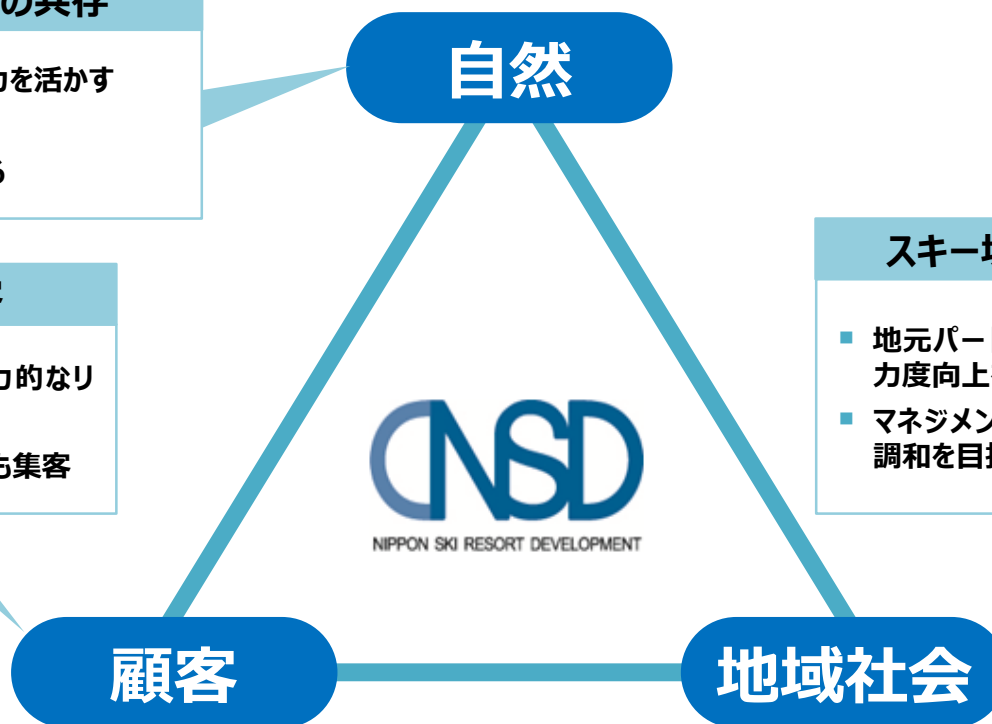
- 冬だけでなく四季折々の魅力を活かす
- 貴重な自然を次世代へ繋ぐ
- 自然の脅威から、顧客を守る

様々な客層を集客

- ノンスキーヤーにとっても魅力的なりゾートづくり
- 国内だけではなく、海外からも集客

スキー場を基点とする地域活性

- 地元パートナーと手を結び、スキー場発の魅力向上を目指す
- マネジメントのローカライズにより、地域との調和を目指す



ハンズオン型の再生・運営

惜しみなきノウハウ提供

データ重視

競争ベンチマーク

顧客目線

プロ人材の派遣・育成



ローカル人財

現場を知悉

地元コミュニティへのアクセス

地方創生へ寄与

連携

- 地域おこし
- 特産品拡販
- エリア集客

活性化

- 施設・設備への投資
- 雇用拡充
- 中長期的コミット

着実な成長

内的成長

グリーンシーズン

インバウンド



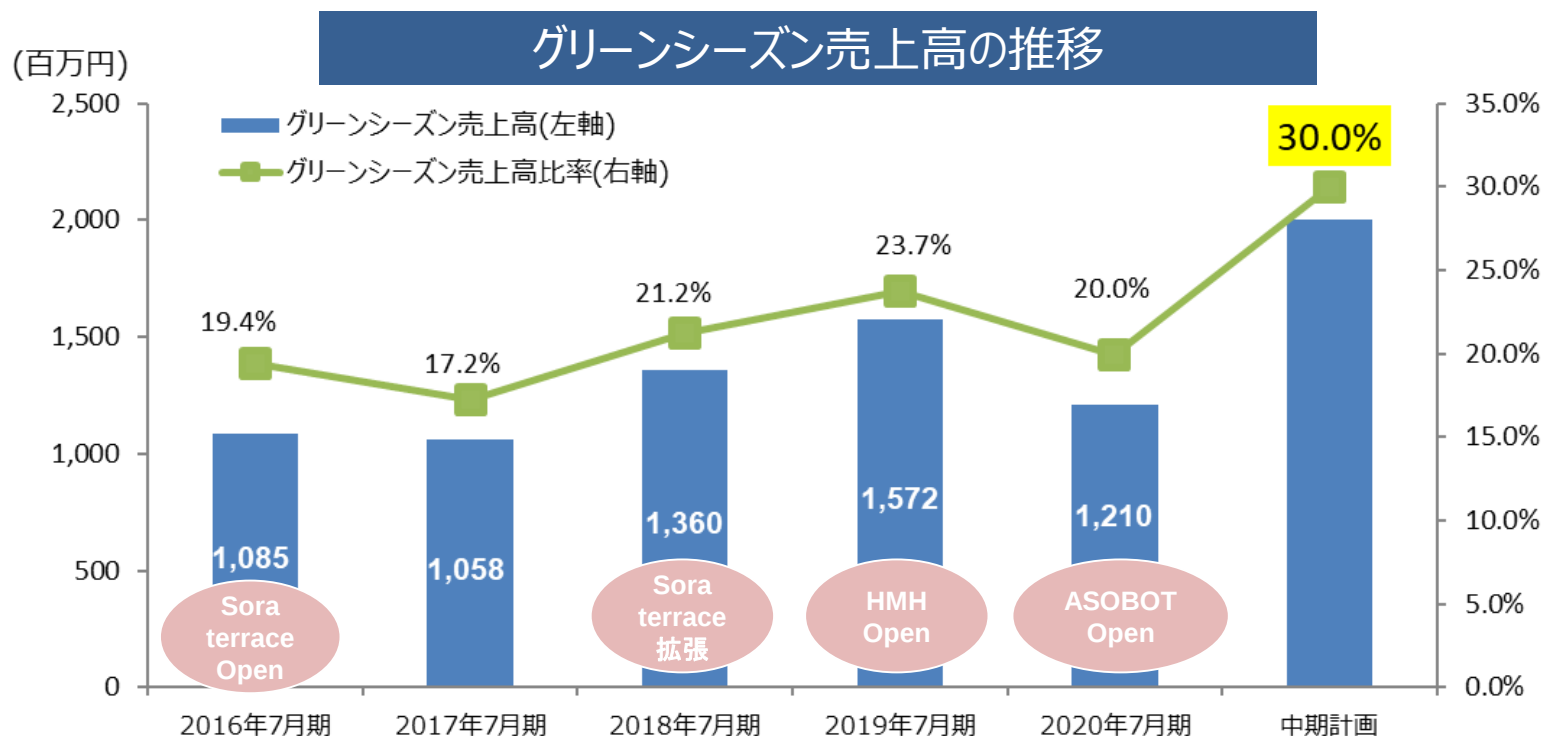
外的成長

M&A

当社グループのスキー場

	HAKUBA VALLEY 鹿島槍スキー場	竜王スキーパーク	川場スキー場	HAKUBA VALLEY 八方尾根スキー場	HAKUBA VALLEY 岩岳スノーフィールド	HAKUBA VALLEY 柺池高原スキー場	めいほうスキー場	菅平高原スノーリゾート
								
グループ化	2006年9月	2009年11月	2010年10月	2012年11月	2012年11月	2012年11月	2014年10月	2015年11月
立地	白馬エリア (長野)	志賀エリア (長野)	沼田エリア (群馬)	白馬エリア (長野)	白馬エリア (長野)	白馬エリア (長野)	奥美濃エリア (岐阜)	上田エリア (長野)
標高 山頂-山麓	1,550-830(m)	1,930-850(m)	1,870-1,290(m)	1,831-760(m)	1,289-750(m)	1,680-800(m)	1,600-900(m)	1,650-1,250(m)
総面積 (当社所有面積)	78ha(35ha)	95ha(11ha)	60ha(0.1ha)	200ha(2ha)	125ha(10ha)	156ha(0.4ha)	96ha(-ha)	175ha
リフト本数	8	13 + ロープウェイ1基	5	24 + ゴンドラ1基	9 + ゴンドラ1基	19 + ゴンドラ1基+ ロープウェイ1基	5	19
来場者数 (20年7月期ウィンターシーズン)	81千人	203千人	183千人	299千人	52千人	242千人	169千人	231千人
ゲレンデ特徴	■ 北アルプスを望む雄大な景観	■ 166 人 乗 り ロープウェイ ■ 幅広いゲレンデ	■ 都心から2時間圏内 ■ 良質な雪質	■ 長野オリンピックのアルペン競技会場、スキーヤーのメッカ	■ 全国岩岳学生スキー大会が有名	■ 柺池自然公園の散策、トレッキングなど夏季営業も盛ん	■ 名古屋中心部から2時間圏内、良質な雪質	■ 首都圏から日帰り圏内に立地しアクセス良好
主要な客層	首都圏、長野県内のファミリー及び幅広い層	首都圏からのバスツアー利用者	首都圏からの日帰り顧客	初心者～上級者、関東・中部・関西から幅広い客層	首都圏、長野県内のファミリー及び幅広い層	初級者～上級者、関東・中部・関西から幅広い客層	名古屋圏、関西圏のファミリー及び幅広い層	首都圏、長野県内のファミリー及び幅広い層

- 竜王では2015年10月にSORA terraceをオープンし、来場者数は9千人(15/7期)から98千人(19/7期)まで増加
- 山頂テラスのノウハウを横展開し、白馬岩岳マウンテンリゾートではHAKUBA MOUNTAIN HARBOR(HMH)を2018年10月に開業。来場者数は34千人(18/7期)から96千人(20/7期)まで増加
- グループのグリーンシーズン売上高は16年7月期の1,085百万円から、19年7月期は1,572百万円まで増加。20年7月期はコロナの影響によるクローズにより、1,210百万円となった



竜王 Sora terrace

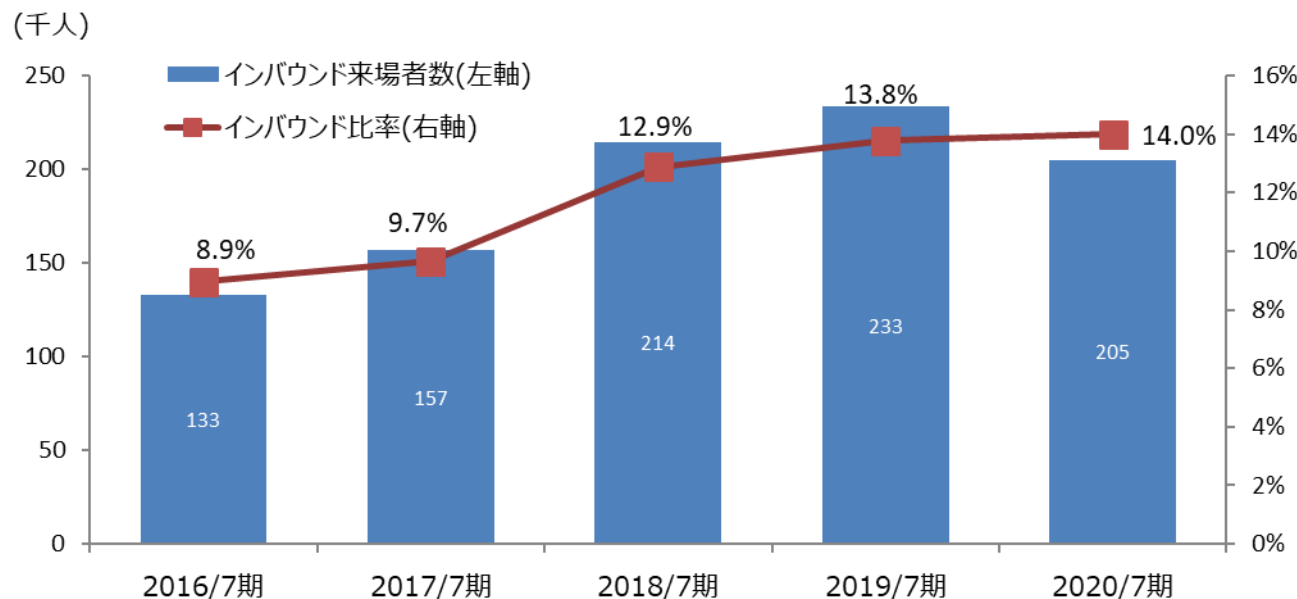


Hakuba Mountain Harbor

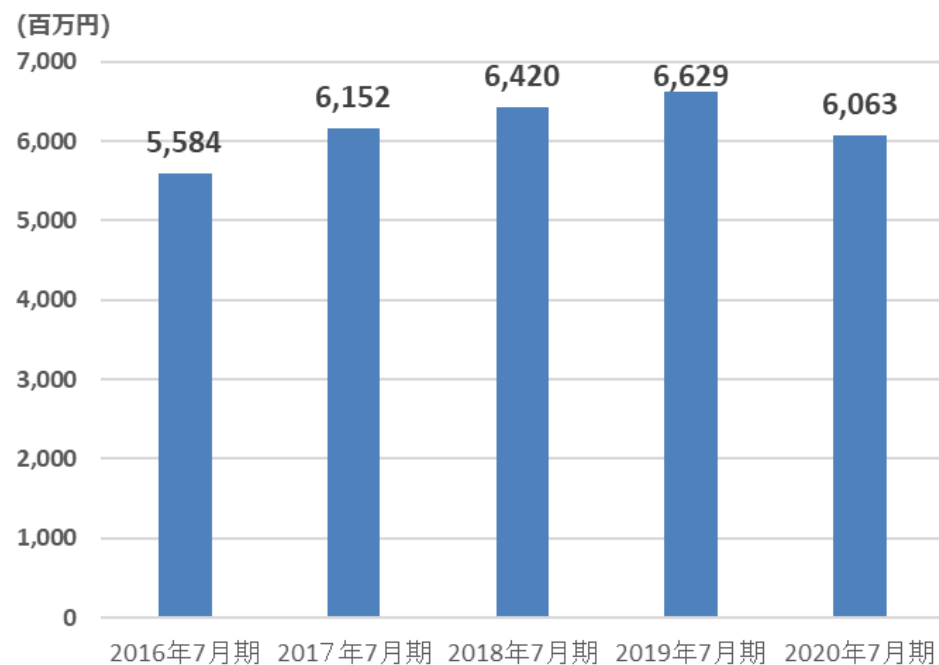


- 21年7月期はコロナの影響もあり、インバウンド来場者は計画上見込まない
- しかしながら、コロナ収束後のインバウンド再来場をにらみ、スキー場ベースエリアにおける大型ホテルやアコモデーション不足に対しては、地域連携し、中長期的に解決
- ソフト面でも外国人向けのスクールやサービス等、地域の外国人とも連携しながら改善を継続

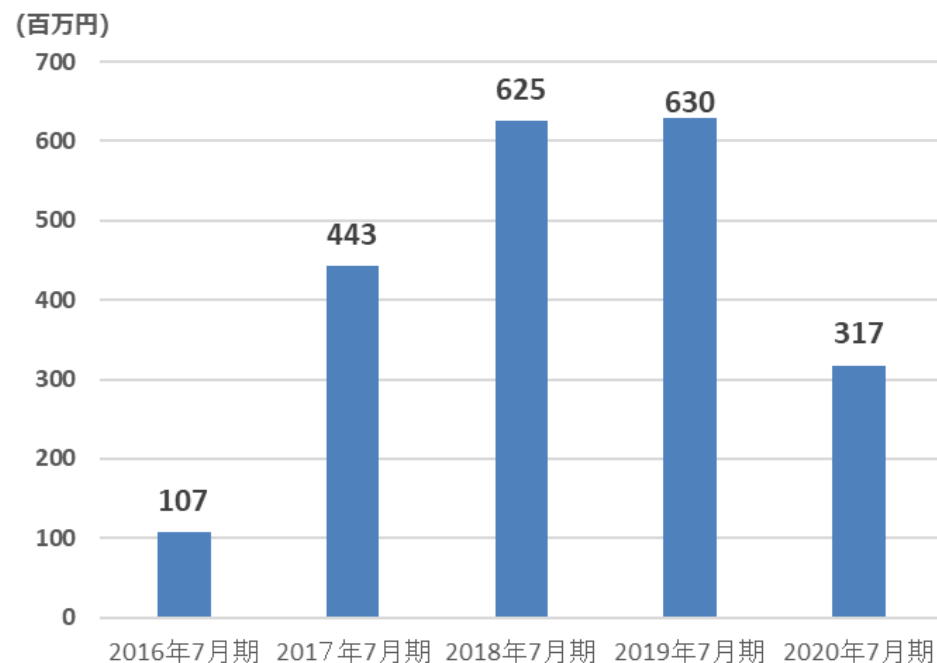
全グループスキー場来場者に対するインバウンド来場者割合



売上高



営業利益



当社が支援しているアスリート6名



岩淵 麗楽 選手
【スノーボードフリースタイル】

2018 平昌オリンピックSB女子 4位
2019 World CupイタリアSB女子優勝
2019 World CupアトランタSB女子優勝
2020 XGAMES ASPEN SB 銅メダル
2019-2020 SB女子年間チャンピオン



川村 あんり 選手
【スキーモーグル】

2019 World Cup ルカ 銀メダル
2019 World Cup 中国 5位
2020 全日本選手権 優勝
2020 World CupスウェーデンMO2位
2020 World CupスウェーデンDM3位



原 大智 選手
【スキーモーグル】

2016 World Cup 田沢湖 4位
2016 World Ranking 8位
2018 平昌オリンピック 銅メダル
2019 World Cup カナダ 銅メダル
2019 世界選手権 銅メダル



近藤 心音 選手
【スキーフリースタイル】

2018 世界ジュニア選手銅メダル
2019 NorAm Cup CA Slopestyle 2位
2020 FIS尾瀬戸倉SS 優勝
2020 FIS尾瀬戸倉BA 優勝



平林 安里 選手
【マウンテンバイク】

2019 Coupe de Japon
妙高杉ノ原CJ-2 1位
2019 全日本U23クラスMTB優勝4連覇
2020 全日本MTB選手権XCC 3位



小野塚 彩那 選手
【スキーフリースタイル】

2014 ソチオリンピックSH女子 銅メダル
2017 X GAMES ASPEN 銀メダル
2018 平昌オリンピックSH女子 5位
2019 FWQ Freeride Hakuba 優勝
2020 FWQ Freeride Hakuba 優勝

日本スキー場開発はアスリート支援を通じて
スキー文化の発展に貢献します